



2023年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年5月11日

上場会社名 スターツ出版株式会社
コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菊地 修一

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 金子 弘

TEL 03-6202-0311

四半期報告書提出予定日 2023年5月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の業績(2023年1月1日～2023年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	2,052	45.9	619	161.3	622	155.4	517	268.5
2022年12月期第1四半期	1,406	5.2	237	34.3	243	32.4	140	73.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	134.66	
2022年12月期第1四半期	36.54	

当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第1四半期	8,600	6,792	79.0	1,768.93
2022年12月期	8,554	6,389	74.7	1,664.17

(参考)自己資本 2023年12月期第1四半期 6,792百万円 2022年12月期 6,389百万円

当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期				60.00	60.00
2023年12月期					
2023年12月期(予想)				32.50	32.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。2022年12月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2023年12月期の業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,500	14.9	700	15.5	800	14.0	500	13.6	130.22
通期	7,500	6.8	1,700	7.1	1,800	5.9	1,250	7.1	325.55

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期1Q	3,840,000 株	2022年12月期	3,840,000 株
期末自己株式数	2023年12月期1Q	316 株	2022年12月期	294 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期1Q	3,839,693 株	2022年12月期1Q	3,839,706 株

(注) 当社は2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「発行済株式数(普通株式)」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP.3「1.当四半期決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、徐々に経済活動の正常化が進む一方で、資源価格の高騰や世界的な金融引き締め等により依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと「文化と笑顔の需要創造」をミッションに掲げ、紙・電子出版による書籍、コミック、雑誌の発行、「野いちご」等の小説サイトの運営、女性向けWEBサイト「オズモール」での情報発信や施設予約サービスの提供、オンラインを含むイベント開催等とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。

このような営業活動の結果、当第1四半期累計期間の売上高は20億52百万円（前年同期比45.9%増）、営業利益は6億19百万円（前年同期比161.3%増）、経常利益は6億22百万円（前年同期比155.4%増）、四半期純利益は5億17百万円（前年同期比268.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、自社で運営する小説サイト「野いちご」「ベリーズカフェ」「ノベマ!」を起点に、独自のマーケティングにより恋愛小説から異世界ファンタジー、ライト文芸まで幅広いジャンルの作品を書籍・コミックとして発刊しております。

当第1四半期累計期間は、書籍・コミックの発刊点数の増加、マーケティングの徹底による読者ニーズに沿った商品展開、映像化等のIP展開やSNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。書籍・コミックの売上高は、女性向けコミックレーベル「ベリーズコミックス」「noicomi」、男性向け異世界ファンタジーレーベル「グラストコミックス」「グラストノベルス」、ライト文芸レーベル「スターツ出版文庫」が順調に売り上げを伸ばしたこと等により増加いたしました。個別のコンテンツでは、コミックと小説で展開しております『鬼の花嫁』が、本年2月に紙コミック第2巻及び小説7作目が発刊したこともあり、昨年に引き続き業績に寄与いたしました。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は12億83百万円（前年同期比62.6%増）、営業利益は6億51百万円（前年同期比92.9%増）となりました。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したビューティサロン・ホテル・レストラン等の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等の東京地域密着の自社メディアとSNSコミュニティ「東京女子部」等を活用したPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、利用者満足度の高い施設の開拓と予約プランの開発やSEO等のユーザー集客施策の強化、クーポン施策等のCRM強化によるユーザー満足度の向上に注力してまいりました。当第1四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減し、前年同期と比較してレストラン予約を中心に利用者数が改善したことにより売上高が増加し、コロナ禍前の2019年同四半期の売上高を上回る結果となりました。

PR・販促ソリューションでは、SNSコミュニティ「東京女子部」のブランド化や「オズマガジン」等の東京地域密着メディアを活用したお出かけ支援の強化、デジタルマーケティングによる新たなマーケットの開拓に注力してまいりました。当第1四半期累計期間は、商業施設向けの集客支援等の売り上げが伸長した一方で、自治体向けのお出かけ支援等の売り上げが低調に推移したことにより前年同期と比較して売上高は微増となりました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は7億68百万円（前年同期比24.6%増）、営業利益は0百万円（前年同期は、営業損失69百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて46百万円増加し、86億円となりました。流動資産は、現金及び預金が2億60百万円、その他流動資産が36百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が2億61百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて45百万円増加し、76億14百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末からほぼ横ばいで推移し、9億86百万円となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて3億56百万円減少し、18億8百万円となりました。流動負債は、未払法人税等が2億56百万円、買掛金が1億7百万円減少した一方で、賞与引当金が82百万円増加したこと等により、前事業年度末と比べて3億24百万円減少し、17億14百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて31百万円減少し、94百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、利益剰余金が四半期純利益の計上により5億17百万円増加した一方で、配当金の支払により1億15百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて4億2百万円増加し、67億92百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間における現金および現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ2億60百万円増加し、36億14百万円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額3億79百万円、仕入債務の減少1億7百万円、未払消費税の減少59百万円等による資金の使用の一方で、税引前四半期純利益6億22百万円、売上債権の減少2億61百万円等の資金の獲得により、3億85百万円の資金を獲得(前年同四半期は1億42百万円の資金を獲得)いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得等により、11百万円の資金を使用(前年同四半期は53百万円の資金を使用)いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、1億13百万円の資金を使用(前年同四半期は74百万円の資金を使用)いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想に関しましては、2023年2月13日発表の「2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」に記載しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,353,902	3,614,621
売掛金及び契約資産	2,459,949	2,198,028
製品	95,803	97,515
仕掛品	50,375	45,982
返品資産	44,371	42,170
前払費用	21,765	38,022
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	43,121	79,197
貸倒引当金	△944	△1,363
流動資産合計	7,568,345	7,614,173
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	38,343	37,294
工具、器具及び備品(純額)	15,629	14,745
有形固定資産合計	53,972	52,040
無形固定資産		
商標権	499	460
ソフトウェア	139,580	134,275
ソフトウェア仮勘定	5,067	11,295
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	147,523	148,407
投資その他の資産		
親会社株式	566,192	550,813
投資有価証券	101,818	117,802
差入保証金	86,764	85,764
前払年金費用	1,660	4,342
その他	27,784	26,893
投資その他の資産合計	784,220	785,616
固定資産合計	985,716	986,065
資産合計	8,554,061	8,600,238

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	511,412	404,411
未払金	99,723	90,931
未払費用	37,292	49,663
未払法人税等	387,068	130,388
未払事業所税	4,230	1,027
未払消費税等	129,680	70,638
前受金	8,055	5,776
預り金	164,684	171,302
賞与引当金	47,500	130,000
返金負債	575,125	565,712
ポイント引当金	73,946	94,184
流動負債合計	2,038,719	1,714,036
固定負債		
繰延税金負債	67,833	33,983
役員退職慰労引当金	57,600	60,100
固定負債合計	125,433	94,083
負債合計	2,164,153	1,808,120
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	4,896,235	5,298,095
自己株式	△350	△420
株主資本合計	5,972,885	6,374,675
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	417,022	417,443
評価・換算差額等合計	417,022	417,443
純資産合計	6,389,908	6,792,118
負債純資産合計	8,554,061	8,600,238

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,406,587	2,052,431
売上原価	733,640	916,750
売上総利益	672,946	1,135,680
販売費及び一般管理費	435,696	515,802
営業利益	237,250	619,878
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,052	2,103
貸倒引当金戻入額	23	-
雑収入	4,549	971
営業外収益合計	6,624	3,074
営業外費用		
為替差損	3	1
営業外費用合計	3	1
経常利益	243,871	622,950
特別損失		
固定資産除却損	8,620	-
特別損失合計	8,620	-
税引前四半期純利益	235,251	622,950
法人税、住民税及び事業税	102,183	139,935
法人税等調整額	△7,249	△34,035
法人税等合計	94,933	105,899
四半期純利益	140,317	517,051

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	235,251	622,950
減価償却費	19,988	16,475
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△23	418
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,900	2,500
賞与引当金の増減額(△は減少)	73,500	82,500
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△4,074	-
返品債権特別勘定の増減額(△は減少)	△56,617	-
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△303,887	-
返金負債の増減額(△は減少)	431,721	△9,412
ポイント引当金の増減額(△は減少)	7,195	20,238
受取利息及び受取配当金	△2,052	△2,103
売上債権の増減額(△は増加)	138,941	261,921
棚卸資産の増減額(△は増加)	△23,066	2,681
返品資産の増減額(△は増加)	△34,167	2,201
その他の資産の増減額(△は増加)	1,236	△55,805
仕入債務の増減額(△は減少)	△60,579	△107,001
未払金の増減額(△は減少)	3,031	△15,005
未払消費税等の増減額(△は減少)	△47,656	△59,042
その他の負債の増減額(△は減少)	66,618	13,506
その他	△10,670	△13,573
小計	436,590	763,451
利息及び配当金の受取額	2,052	2,103
法人税等の支払額	△296,566	△379,865
営業活動によるキャッシュ・フロー	142,075	385,688
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△38,803	△321
無形固定資産の取得による支出	△14,606	△10,937
保険積立金の積立による支出	-	△694
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,410	△11,953
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△74,603	△112,946
自己株式の取得による支出	-	△70
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74,603	△113,017
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,061	260,718
現金及び現金同等物の期首残高	2,288,534	3,353,902
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,302,596	3,614,621

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、当第1四半期累計期間における財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注)	四半期損益 計算書計上額
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	789,578	617,008	1,406,587	-	1,406,587
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	789,578	617,008	1,406,587	-	1,406,587
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	789,578	617,008	1,406,587	-	1,406,587
セグメント利益又は損 失(△)	337,670	△69,883	267,786	△30,536	237,250

(注) 1. セグメント利益の調整額△30,536千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注)	四半期損益 計算書計上額
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	1,283,751	768,680	2,052,431	-	2,052,431
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,283,751	768,680	2,052,431	-	2,052,431
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,283,751	768,680	2,052,431	-	2,052,431
セグメント利益	651,449	634	652,083	△32,205	619,878

(注) 1. セグメント利益の調整額△32,205千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。